

目的 婦人服のシルエットの種類は〇〇ラインといわれるものでも多種多様にある。それらはそれぞれ水造形上の意味をもっているが、中には名称が異っても比較的類似とみられるものもある。本研究ではスタイルの類型化を目的として視覚による分類を試みた。そのため田中千代服飾辞典より23種31試料のスタイル画を抽出し、これらの類似性から分類を試みる。またスタイル画のどの部分を見て特徴把握が行われたか、男女に差があるかなどの分析を試みる。

実験方法 31種のパターンをランダムに配列し、任意のパターン i を他の j_1, j_2, \dots と比較し重複を許して似ているか否かを回答させる。回答者は女子40名、男子20名。

(1) j ごとに似ていると答えられた割合のコンジョイントマトリックスを男女別につくり、 $f_{ij} \sim f_{ji}$ の大きさから混同差を求める。

(2) $S_{ij} = (f_{ij} / \sum_{i=1}^n f_{ij}) + (f_{ji} / \sum_{j=1}^n f_{ji})$ を計算し、類似度マトリックス S_{ij} を求め、Johnson の階層的クラスタ法 (HCS) による類似性判断の解析を行う。

(3) S_{ij} から Kruskal の NMDS CAL 法による2次元尺度構成値を求める。

結果 (1)~(3)法の分析結果から共通してあらわれた類似性の高いシルエットはつぎのよう分類された。女子の場合は15種が(5種)(3種)(5種)(2種)に分類され、男子は16種が(5種)(2種)(7種)(2種)のそれぞれ4群にまとめられた。女子はシルエットの形状の他に全体から受ける感覚要素を注目しているのに対し、男子は装飾的要素に注目し、混同の度合からみると男子の形状把握は不安定であった。